

株式会社 関西クラウン工業社

精密な「冷間鍛造」と
企業間コラボで新分野へ企画力
自信有
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット

冷間鍛造でつくられる加工品

業務内容
別作工具の技術と
ネットワークを活かす

特注品の「別作工具」やソケットレンチ等、高い精度が要求される製品を長年手掛けてきた同社。その技術力と協力会社との連携を活かした新しいものづくりを得意としている。

当初から「他社と協同した製品づくり」を掲げ、大阪東部にある協力企業とのネットワークを駆使して事業を展開してきた。その経験をベースに、工具生産が海外へと流れ始めた約20年前から、次なる主力製品として「TVモニターハンガー」の製造に着手。

60数社の協力企業の技術を融合することで、多種多様なアイテムをコストを抑えて製造することに成功した。



複雑な内径を持つ別作工具

強み
小ロットの冷間鍛造は
業界でも希少

同社が誇る技術は、独自の「冷間鍛造」だ。冷間鍛造の利点は、切削が必要な部品を、一発の圧縮加工ですばやく成形できること。手間のかかる切削工程を大幅にカットすることが可能で、強度や精度の高い部品を低コストで効率生産することができる。本来は量産向けの技術だが、100個から

という小ロットに対応しているのが同社ならではの。試作品や少量部品にも冷間鍛造のメリットを提供している。

さらに、冷間鍛造では困難とされる複雑な形状の「曲がり歯傘歯車」の生産を、技術の向上によって達成した。「強度の他、静音が求められる機械の部品に適しています」と温川社長は話す。

ネットワーク
他社と連携した
ものづくりをリード

もう一つの強みは、60数社に及ぶ協力会社と共に、製品の企画・設計から製造まで総合的に行う「トータルソリューション事業」だ。一つひとつの町工場は製造の一部しか担えなくても、集合すれば製品開発に必要な機能をすべて備えることができるという発想で、これまでにいくつもの開発案件を受注してきた。「国際的な価格競争が激しくなる中でも、他社と連携することで、自社での設備投資を抑えながら時代に求められる製品をつくりたいけます」と温川社長。「どんな相談にも100%応えます」と自信を見せる。

今後の展望
ロボット産業にも進出

異分野の企業や大学と手を組み、ロボット産業への進出を図ることが今後の目標だ。「異業種交流会から発展した『八尾ロボットコンテスト』での出会いが縁で、実際にロボット開発の話が持ち込まれたこともあります。産官学のつながりもできましたので、さらに本腰を入れて取り組みます」。

COMPANY PROFILE

株式会社 関西クラウン工業社

大阪
23

ISO 9001

当社の
歴史

もともと飲料水の王冠を製造する工場としてスタートしましたが、時代のニーズに合わせ、昭和41年からソケットレンチの製造を開始。「GALBOブランド」として海外に輸出したこともあります。いろいろと事業を変化させてきましたが、「冷間鍛造」だけは変わらず追求し続け、難易度の高い技術を確立するに至っています。これを活用し、新分野に挑戦したいですね。

激変の時代、自然界と同じように「変化する
ものだけが生き残る」のだと思います。

代表取締役 温川 政佳さん



■主な事業内容

TVモニターハンガーの製造、別作工具やソケットレンチの製造、ロボットの製作等

■主な取引先(納入先)

工具メーカー、自動車部品メーカー、電器メーカー、映像周辺機器メーカー等

住 所 / 〒581-0026
八尾市曙町1-54
TEL / 072-991-8899
FAX / 072-991-8808
創 業 / 昭和25年8月
設 立 / 昭和52年4月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 10名

<http://www.kankura.co.jp/>